



i am ...

Vol. VIII

Ayami Watanabe

先輩・仲間と支え合える環境が 保育士として社会人としての成長へ

渡邊 綾美 (わたなべ あやみ)

在宅・福祉サービス事業部
聖隷こども園わかば 5歳児担任 (保育士※1)

静岡県内の大学にて幼児教育を学び、2014年新卒採用で、
聖隷福祉事業団に保育士として入社。聖隷こども園わかば
に配属、春入社4年目を迎え、5歳児(みどり組)28
名の担任として子どもたちの健康、安全面に配慮し、園児
の心身にわたる豊かな成長の手助けを行う。自身も聖隷福
祉事業団の桜ヶ丘保育園※2出身。



子どもたちの成長を見届けたい 保育士になる「夢」を「現実」に

聖隷三方原病院や
聖隷厚生園など医
療・福祉施設に囲ま
れた三方原地区に位
置する聖隷こども園
わかばは、聖隷の保
育事業の発祥の地で
もある。地域の「ズ
」に
に
4月
の
員
200名へ。
この
地に
若手
美の

「頑張れ!あともう少
で
の
を
る、
自
を
校
保
め
た。

中学生になっても気持
ちは
育
し
あ
を
た
ン
た
件

自分と同じような生活
を送
代
た
心
疑
た
考
指
は
な
向
付

幼児教育について知識
を
時
科
を

- ・特技 : トランペット演奏
- ・出身地 : 静岡県浜松市
- ・座右の銘 : 初志貫徹

幼少期の思い出を胸に、 聖隷の一員に

渡邊は、大学卒業後に就職先を考えた際、自分が幼い日を過ごした聖隷の保育園が選抜肢の一つとなった。幼少期の親の仕事の関係で聖隷福祉事業団が運営する桜ヶ丘保育園に転園し、不安でいっぱいだった渡邊は、先生たちの温かい眼差しに救われた。たくさん子どもたちがいる中で自分のことをしっかり見てくれていると感じ、子どもながらも安心して残っているという記憶が今でも鮮明に残っている。「聖隷の一員となって、自分が受けた保育を子どもたちにもしたい」。渡邊の熱い思いが実り、聖隷福祉事業団に保育士として就職が決まり、わかば保育園^{※3}に配属された。



桜ヶ丘保育園（当時）卒園式の礼拝にて
右から4番目が渡邊。

保育士としての社会人生活にやる気と希望で満ち溢れて入職した渡邊であったが、新人時代は、保護者とのかわりに戸惑いもあった。子どもを持つ親御さんの気持ちにきちんと寄り添えるのか？ 人生の先輩でもある保護者の方にどう接していいのか？ と不安を抱えながらも、先輩や仲間と支え合いながら日々仕事に向き合っていた。



2014年に新卒採用となった同期の保育士（鶴見春奈）と
2名で5歳児クラスを担当している。

子どもたちの安心・安全を 最優先に

大切な園児の生命を預かる保育士という仕事は、日々緊張の連続である。

就職当時、先輩保育士から「広い視野を持って子どもたちの姿を把握できるように」と教えられた。広い園庭で園児が楽しく安全に遊ぶことができるよう、担任同士はもちろんだが、他のクラスの保育士とも声をかけあい園庭の隅々まで視線を配る。

事故防止の徹底にもチームワークが欠かせないことを学んだ。

「当時から同期の鶴見さんと一緒に、子どもたちがチャレンジしたい気持ちを大切にしながら、安心・安全に過ごせるように細心の注意を払っています」

緊張感を持ちながらも、子どもたちの成長を見られる喜びも感じ、充実した毎日を送っていたように思えた渡邊だったが、就職して1年が経とうとしたころ、自分の心の変化に気づいた。「このままではダメだ・・・」。得体の知らない不安が渡邊を襲った。



小学校6年生運動会で。
就学前の年長児との共同種目が大好きだった。



みどり組28名の園児と
2017年4月に増築された新しい教室にて

自分自身の成長への戸惑い 初心に帰り次のステップへ

渡邊は、仕事に慣れたころ、理由のわからない不安が払しょくされないまま、日々を過ごす時期があった。ある日、次の活動に間に合わせなければと、なかなか思うように進まないオムツ替えに焦る気持ちがあった。そんな中たどたどしい言葉で、「綾美先生のこと大好き」とオムツ替えをしていた園児から声を掛けられた。子どもたちは自分のことを信頼し、必要としてくれているのに、子どもたちの気持ちに寄り添い切れていない自分にもどかしさを感じた。

そんな渡邊の姿を気にかけて当時の主任が、話をする時間を設けてくれた。渡邊はせきを切ったように話し出した。仕事も覚え一人でできることが増える反面、分からないことがあっても、こんなこと聞いていいのかと考へてしまい、周りの先輩たちへ話し掛ける際も緊張してしまうこと。



主任は黙って最後まで話を聞き、「いつも気を張っていることや自分から周りに悩みを言えないこと、全て分かっているよ。みんな渡邊さんのことを理解しているから、もっと周りのみんなを信頼して大丈夫」と話してくれた。渡邊の目から涙がこぼれ落ちた。

「子どもたちと一緒に働く職員からいつも助けてもらっていると感じます。周りを信じ、初心に帰って子どもたち一人ひとりと向き合いたいと改めて思いました」。渡邊が感じていた不安は次第に無くなり、次のステップへ向かう心の準備ができた。



壁面遊具も充実している
聖隷こども園わかば

遊びの中から学ぶ 環境づくりを

現在の渡邊には、1年目に感じた試行錯誤や不安の色は感じられない。来春、就職後はじめて受け持った2歳児の子どもたちが晴れて聖隷こども園わかばを卒園し、小学生になる。「子どもたちが、愛されて愛する心を知り、互いが大切な存在であることを感じ、また園での様々な経験の中で興味関心を広げ、社会性を培い、少しでもスムーズに小学校生活をスタートできるようにと考へ、保育・教育を行っています」と力強く語る。



保育士としての専門知識や人生の先輩として
渡邊が慕う園長の富永裕美と



来春就学を迎える園児たちに、食の大切さや食事のマナーなどを伝え、基本的な生活習慣の自立をサポートする。



子どもの創造性（想像性）を育む積み木遊びの研修にも参加。保育内容を高める様々な研修での学びを実践に生かしたいと努力を重ねている。



2017年4月の園舎の増築工事に伴って定員も150名から200名へ変更。整備した遊具で遊ぶ園児たち。

子どもが心身ともに健やかに成長するため、保育士は様々な遊びなどの計画をたて、子どもに働きかける。中でも、就学前に基本的な生活習慣を身に付けること、自己肯定感を育てる事に渡邊は尽力している。これは、子どもたちの「今」が未来をつくることを渡邊は知っているからこそその行動である。

子どもたちの巣立ちに備えて、園児たちと共に過ごす時間を大切に愛おしそうに語る渡邊の目は常に輝いている。

「地域の子育てを支える保育のプロとして 高い志を持ち続ける」

渡邊は外部の研修にも積極的に参加し、「保育士の仕事は、経験を積むことでしか学べないこともあるが、私は乳幼児の発達を学び、子どもへの関わり、保護者への支援といった専門性を高め、保育士としての幅を広げたい」と決意を新たにしている。

「子どもたちの成長を一番近くで見ることが出来る。次は何ができるようになるだろうとワクワクしますし、できた時の喜びを共有することは何ものにも代えられない」。渡邊は、園児の成長を目の当たりにするたび、自分のことのように感激し、自身の原動力にしているのだ。

園児の成長がまさしく渡邊の保育士としてのキャリアである。

「このわかばをこれからも、子育てに係る皆さんのホッとできる場所にできたらうれしいです」。そんな環境づくりの一端を渡邊が担うことで地域の福祉サービスに貢献していきたいと志を持っている。



聖隷の保育事業の原点。
1941年頃、地域のこどもたちをお預かりしていた様子。

聖隷の保育事業の原点でもある、聖隷こども園わかばの長い歴史を受け継ぎながら、これからの園の未来を担い、新たなわかばの歴史を創っていくのも渡邊に課せられた使命である。

「初志貫徹」この言葉は渡邊の座右の銘である。大切な仲間と先輩たちに囲まれて、渡邊はこれからも子どもたちの安心できる場所づくりに邁進していく。



取材：法人本部 秘書・広報課
鈴木・柴田・松林

注：本文中の渡邊の「邊」は正しくは「邊」です。

- ※1・・・認定こども園における正式名称は
保育教諭
- ※2・・・2015年4月 幼保連携型こども園
「聖隷こども園桜ヶ丘」へ
- ※3・・・2015年4月 幼保連携型こども園
「聖隷こども園わかば」へ

i am ...

1都8県で事業を展開する聖隷福祉事業団。現在、14,000人以上（※）もの職員がそれぞれの施設で日々業務に取り組んでいます。本誌では聖隷の「ヒト」、聖隷で活躍する「モノ」、聖隷で行われる「コト」へピンポイントにスポットを当てます。

利用者さんが住み慣れた地域で暮らし続けることができますように——
女性職員のみで構成された秘書・広報課編集チームが、一際輝く「わたし」の魅力、そして聖隷福祉事業団の魅力をご紹介します。（※）2017年4月現在

企画・編集・発行：法人本部 総合企画室 秘書・広報課



社会福祉法人
聖隷福祉事業団